

おめでとう、200歳！  
八代家住宅の  
魅力を  
再発見！



八代家で  
昔の暮らし  
体験

文化庁「NPOによる文化財建造物活用モデル事業」の当法人採択事業「おめでとう、200歳！八代家住宅の魅力再発見！」の第2弾イベント「八代家で昔の暮らし体験」が、1月25日（日）に開かれました。  
(内海)

## 八代家で昔の暮らし体験 報告

イベントは午前・午後の二部構成で、午前は「親子で体験！カマド料理」と題し、実際にカマドで煮炊きをしていた地元のおばあさん方に講師になっていただき、八代家住宅の土間にあるカマドを使って料理体験をしました。石造りのカマドではホカホカのご飯を、土造りのカマドでは地元の野菜たっぷりのホウトウを作りました。八代家住宅のカマドに火が入るのは久々のこと。きちんと使えるか心配だったのですが、カマドには赤々と炎が燃え、釜からは湯気があがりました。できあがったごはんとホウトウは、びっくりする程美味しかったです。炊飯器で炊くごはんとは一味も二味も違い、みんな何杯もおかわりをしていました。

イベントには、市内外から集まった親子13組28人が参加してくれました。小さい子グループは米とぎや野菜洗いを、大きい子グループは野菜切りや薪をくべることを体験しました。参加者には未就学児のお子さんもいて、カマドから出る煙で目を真っ赤にしている子もいたのですが、それも「昔の暮らし体験」。今日の体験を忘れないでいてほしいです。

午後は「明野の古老に聞く『私がこどもだった頃』」と題して、明野にお住まいのおじいさんとおばあさんにご出演いただき、こどもだった頃のお話をうかがいました。主に「冬の暮らし」についてうかがったのですが、その寒さや、食べていたものや身に付けていたものについてお話してくださいました。お二人の話は、時に笑い声も漏れるユーモアのあるお話だったのですが、楽しいことばかりではなく、当時の生活の厳しさや辛さについても語っていただき、経験をしていない若い世代にとって身に染みるものでした。

モノに溢れた現代生活を送る私達だからこそ、忘れてはいけない、そして知らなくてはならない話ばかりだったと思います。かやぶんでは、今後もこのような機会を設けて、語り継いでいきたいと思っています。講師の先生方、ご出演者の方々、どうもありがとうございました。



2月21日（土）には、「おめでとう、200歳！八代家住宅の魅力再発見！」の最終イベント「八代家でさきどり春祭り」を行います。八代家を舞台に、獅子舞や神楽の披露、餅つきなどをします。ぜひ、遊びこてください。お問合せはかやぶん(0551-25-2019)まで。

